

相談窓口から見るコロナ禍が子どもに与えた影響

県民文化部こども若者局 次世代サポート課

1. 相談件数の推移

(単位：件)

	R1 年度		R2 年度	増 減
チャイルドライン※1	37.3	→	27.7	減少 ▲25.7%
子ども支援センター	777	→	667	減少 ▲ 8.5%
学校生活相談センター	828	→	827	減少 ▲ 0.1%
LINE※2	5.6/日		15.5/日	増加 176.8%

※1、※2 は R1 年度と R2 年度の 1 日当たりの相談件数を比較したもの

2. 主な相談内容

(1) チャイルドライン (気持ち)

	R1 年度		R2 年度	
1	つらい・苦しい	21.1%	困っている	16.0%
2	葛藤・迷い・戸惑い	13.4%	不安	15.6%
3	いやだ	13.3%	つらい・苦しい	11.4%
4	怒り・いらだち	8.9%	葛藤・迷い・戸惑い	8.3%
5	孤独・寂しい	8.2%	いやだ	7.4%

■特徴・主な相談内容

- ・令和2年度は、前年度まであまりなかった「困っている」、「不安」が上位となった。
- ・両親も担任の教師もコロナで余裕がなく、話を聞いてもらえない。
- ・看護師の母親を同級生から「コロナ」と呼ばれたりして、学校に行けなくなった。
- ・修学旅行や各種行事が中止になり、どこへも行けないし精神的に疲れた。
- ・友達からカラオケに誘われたが、感染予防を考えると躊躇してしまうし、コロナに対する温度差で友達との関りが難しくなった。

(2) 子ども支援センター (子どものみ)

	R1 年度		R2 年度	
1	思春期	16.1%	思春期	26.0%
2	いじめ	15.1%	交友関係	17.6%
3	交友関係	14.5%	いじめ	10.2%
4	学校関係	9.3%	学校関係	9.9%
5	虐待 家族	6.4%	家族	8.0%

■特徴・主な相談内容

- ・令和2年度は、前年度に比べ、主に「思春期」、「家族」、「交友関係」に関する相談が増加した。
- ・「親の収入減により進学を諦めた」、「父親が家にいる時間が増えて関係が悪くなった」等、コロナの影響がうかがえる相談が多かった。
- ・コロナで県外の実家に帰省できず、他に頼れる人もいなくて、子育てのストレスから子どもに手を上げてしまうという親からの相談もあった。

(3) 学校生活相談センター（子どものみ）

	R1 年度		R2 年度	
1	学校・教師	20.3%	学校・教師	17.2%
2	子ども同士の対人関係	15.4%	家庭・私生活	16.5%
3	いじめ・いやがらせ	10.9%	子ども同士の対人関係	15.8%
4	家庭・私生活	8.3%	学業・進路	9.8%
5	その他	7.9%	性格など	8.4%

■特徴・主な相談内容

- ・令和2年度は前年度に比べて、「いじめ・いやがらせ」、「学校・教師に関する事」など、学校生活に関係する相談は減少した。
- ・一方で、家庭や私生活に関する相談が大幅に増加しており、コロナ禍により子どもが家庭で過ごす時間が増えた影響が大きいと考えられる。
- ・子ども同士の対人関係に関する相談が、前年度に引き続き一定の割合を占めている。

(4) LINE（教育委員会 LINE 相談窓口「ひとりで悩まないで@長野」）

	R1 年度		R2 年度	
1	友人関係	25.1%	その他（自分の性格等）	26.1%
2	その他（自分の性格等）	22.6%	心身の健康・保健	20.3%
3	心身の健康・保健	19.9%	友人関係	19.4%
4	学業・進路	9.9%	学業・進路	15.2%
5	家庭環境（虐待含む） 恋愛の悩み	6.5%	家庭環境（虐待を含む）	8.0%

※ 数値は「いたずら・無応答」分を除いたもの

■特徴・主な相談内容

- ・令和2年度は、これまで最多だった「友人関係」に替わり、「自分の性格等」が最多となった。
- ・令和2年度は、前年度比で、「学業・進路」、「家庭環境」に関する相談が増加した。
- ・長期休業明けの学校再開直後から、「生活リズムを崩した」、「授業についていけない」、「友人がうまく作れない」などのコロナ禍の影響がうかがえる相談が目立った。
- ・家庭における虐待や自殺願望、自傷行為に関する相談も見受けられた。